

# ～教員おすすめ本～

No. 35

経営学部 経営学科

津田 博



## 『夜と霧：ドイツ強制収容所の体験記録』

ヴィクトール・E. フランクル 著

霜山徳爾 訳

### 【先生からのコメント】

NHKの「100分de名著」に紹介された本書は、みずからユダヤ人としてアウシュヴィッツに囚われ、奇蹟的に生還した著者の「強制収容所における一心理学者の体験」（原題）です。強制収容所という悲惨な状況の中での事実が書かれているので、読むのに躊躇（第3章までは過酷な描写が続く）されるでしょうが、実際に読み進めると、不思議な明るさとともに前向きにしてくれる本です。極限状態であっても、なけなしのパンを譲る者、芸術やユーモアを大切にする者の存在など、人間の尊厳に基づくふるまいに感動するでしょう。

著者は戦後、「人生はどんな状況でも意味がある」と説き、生きがいを見つけられずに悩む人たちにメッセージを発し続けました。



## 『起業の科学：スタートアップサイエンス』

田所雅之 著

### 【先生からのコメント】

本書は、日米で複数の起業経験を持つアントレプレナーにしてベンチャー投資家である著者が、1,000人以上の起業家、投資家への取材を踏まえてまとめた1,750枚ページに上るスライドがベースになっています。スタートアップ企業が直面する課題とその解決策が時系列に整理されています。

起業をテーマにしていますが、新規事業や、新商品・新サービス開発に役立つだけでなく、何か新しいことをはじめる上で様々な知見を与えてくれます。近畿大学で毎年行っているKINDAIビジコン出場のための学習参考図書としてはいかがでしょうか。聞きなれない用語が多いのも事実ですが、丁寧に調べることで、勤務経験がない大学生にとっても、理解できる内容となっています。



## 『日産モノづくりの知識創造経営』

松平好人 著

### 【先生からのコメント】

本書が扱う問題は、企業組織の知識創造を促進する要因は何か、です。そのための事例として取り上げられたのは、日産自動車追浜工場が展開した「追浜チャレンジ」です。海外工場の生産性やものづくり能力が向上する中、追浜工場では次期型キューブの生産がメキシコ工場に決まりかける危機に直面します。生産ラインにおける「3年以内に30%のコスト削減の実現」、これがチャレンジの中身です。この挑戦に携わったチームのリーダーやメンバーたちへの数年にわたるインタビューを通じて、生産ラインにおける知識創造を伴う改革、改善がいかにして進められたかを知識創造理論の視点から詳細に分析しています。最新の経営理論である知識経営論の丁寧な解説もあり、イノベーションや知識創造に関心ある学生諸君に知的満足を与えてくれる良書といえるでしょう。

2019年11月15日  
近畿大学中央図書館